



さる×はた合戦

さく×はた合戦 いざ獣害対策へ！

丹波篠山市（畑地区）

課題

- ・生産者（農家）、捕獲者（猟師）の高齢化と減少。
- ・休耕田や耕作放棄地の増加、狩猟機会の減少。
- ・野生動物が出没しやすい環境に変化。
- ・集落による柵の点検や草刈などの定期実施が困難な状況。
- ・豊かな里のめぐみや自然と調和した人の暮らしが喪失。



取組

- ・平成20年に、市、猟友会、自治会長会、JA、被害集落代表などを構成員として、有害鳥獣対策推進協議会を設立。
- ・サル被害に対し出前講座、電気柵（おじろ棒）の設置、サル監視員によるメール配信、追い払い道具支援、モンキードック育成支援などを実施。
- ・令和2年度、新たに「獣がい対策推進計画」を策定。マイナス課題の「獣害」を資源に変え、地域を元気にする前向きな取組を「獣がい対策」とし、そのモデルづくりを丹波篠山で作し、全国へ発信する。
- ・獣がい対策実践塾や獣がいフォーラムなどを開催。
- ・獣がい対策を共にすすめる関係人口の創出・拡大を目指す。



獣がいフォーラム

効果

- ・出没率に変化、被害軽減の目標を達成。また、畑地区へ訪れる人が増加。
- ・放任柿から作った柿ジャムでロールケーキを商品化。柿ジャムはふるさと納税返礼品に。
- ・耕作放棄地となっていた農地を全国からオーナーを募り、黒大豆畑として再生させる。
- ・他の地区にも波及し、大山小学校では小学生自ら電気柵を設置し、これまで獣害で取れなかった特産品の大山スイカの収穫に成功。地区の大人にやる気を起こす。
- ・企業や大学生が、さく×はた合戦など獣がい対策に参加。関係人口増加につながる。
- ・サル被害対策が高く評価され、平成29年度鳥獣被害対策優良活動表彰で農林水産大臣賞を受賞。



小学生による電気柵の設置

今後の目標

「獣がい対策」の支援をきっかけに、特定地域への愛着や関りを深めながら、地域課題の解決や活性化に多様な形で関わり貢献する「関係人口」のさらなる創出・拡大を目指す。
そして守り伝えたい、人が集まる魅力ある丹波篠山にする。

さる×はた合戦、さく×はた合戦とは

・高齢化など人手不足に悩む畑地区が、獣害対策を「合戦」に見立て、獣害対策のサポーター「戦士」を畑地区内外から募り、戦士たちに畑地区の農産物や風景などの魅力を発信。また、定期的に訪れるファンや関係人口作りの場とする企画。



・さる(猿)×はた(畑)合戦

猿蟹合戦になぞらえ平成25年度からサルの出沒原因になる、放任柿の収穫イベント。



・さく(柵)×はた(畑)合戦

令和2年度から山際や山中の集落防護柵の、メンテナンス作業を行うイベント。